

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に社福の経営理念と事業所の理念を職員が唱和し、実践につなげられるよう意識づけをしている。	地域密着型サービスをふまえたホームの理念を玄関、リビング、職員用トイレに掲示し常に確認している。また、スローガンとしての「あせらず ゆっくり ぼちぼちと」をリビングに掲げ、それを基に日頃のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアを受け入れたり、児童館の子供たちや保育園児との交流を大切にしている。また、敬老会やどんど焼きなど、地域の行事に参加し交流を図っている。	法人では地区の自治会に加入しているがホーム独自の加入についても検討している。地区の体育館で開かれる地元の敬老会に参加している。児童館の子供達が「わくわく教室」の一環として年3回来訪し利用者と交流している。保育園児も七夕の飾りつけに訪れ、利用者も一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町主催の講座受講生の体験実習の受け入れ実績もあり、今年度も予定している。また、学生の教育実習の受け入れや法人で開講した初任者研修にも協力し、人材育成に貢献できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を目安に開催しており、運営状況や利用者の状況等を報告し意見交換をしている。また、恒例行事となっている芋煮会に参加していただき、利用者との交流ができるように努めている。	利用者、家族、近所の方、民生委員、町福祉課担当者、法人常務、事務長、管理者などにより年6回を目安に開き、日頃のホームの報告をし意見・要望をいただいている。芋煮会などホームの行事にも参加していただき利用者の様子なども見ていただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者に困難事例の相談や情報交換をしており、サービス提供が的確にできるよう連携をとっている。	新規利用者の受け入れについて担当者と密に連絡を取り合いながら情報交換を行い、在宅時の支援内容がホーム利用後も継続出来るよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加した職員が復命を行い、また資料を回覧し意識向上に努めている。(夜間門を閉めること、玄関の施錠、敷地境界にセンサー設置は防犯上の観点から)	身体拘束をしないケアについて職員は十分理解している。外部研修にも参加し、参加した職員が研修後、職員ミーティングで報告し、新しい内容を周知することで日頃のケアに取り組んでいる。離設時の地域の人々の見守りや協力依頼なども含めた対応マニュアルも検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が復命を行い、また資料を回覧し理解を深めると共に、職員会議で虐待について話し合う機会を設けている。		

グループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修への参加と復命により理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に施設見学をしていただき口頭及び文書にて契約内容や重要事項について説明を行っている。契約解除に至る際は、その理由を明確に説明し、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内に第三者委員会を設置し、利用者・家族が意見や要望を言えるようにしている。また、ご家族の面会時には積極的に意見や要望をお聞きしている。家族会や夕涼み会などを開催し、家族が意見を言いやすい機会を設けている。利用者の方とは、日頃の談笑や本人への聞き取りにより意見や要望を把握するようにしている。	面会時に声掛けし意見や要望をお聞きしている。年2回行事も兼ね家族会も開かれており、日頃の様子をお話しし、家族の意見等も運営に反映している。利用者からも日頃接している中で希望などをお聞きしている。年4回法人で発行している広報誌にはホームのコーナーもあり、発行された時には利用料請求書に同封し様子を知らせ、家族との意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催し、また、随時ミーティングを開催し意見や提案が聞けるようにしている。 月3回開催される法人の運営に関する会議には管理者が出席し、意見や提案をしている。	年1回職員全員からアンケートを取り、出された意見などを職員会議で議題として取り上げ全員で検討後、サービスの向上に活かしている。新人を育てるための取り組みとしてプリセプター制度を導入しており、法人内での人事異動あるいは外部からの新人が入った場合でも意見等を言える体制ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体としてキャリア段位制度を導入し、職員のスキルややりがいにつながるよう取り組んでいる。 職員がやりがいを持って働けるよう職場環境の整備に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がアセッサー講習を修了し、職員1名がレベル認定に向け取組み中であり、他の職員も順次取り組んでいく予定。 職員がそれぞれの能力や希望に応じた研修に参加できる機会を確保している。 法人内にプリセプター委員会を設置している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はグループホーム連絡協議会が開く勉強会や研修会などに参加できていないが、今後同業者との交流や情報交換ができる機会を持ちたいと思っている。		

グループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族と共に施設見学をしていたとき、思いや要望、心身の状況をお聞きしている。 入所後は不安が軽減できるよう声かけを多くし、表情や仕草から思いをくみ取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設内見学及び面談を行い、施設の概要やサービス利用について理解が得られるよう説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族と面談し、また担当ケアマネジャーと連携を図りながら、事業所としてできる限りの対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の心身の状況に応じ、毎日の掃除、食事の準備、洗濯物干し・たたみなどの家事を職員とともにやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じて電話等で本人の様子や心身の状態を伝え、家族と共に支援できるよう努めている。また、外出や外泊、面会、通院等により家族と関われるよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員と共に、昔住んでいた家の近所やお店など馴染みのある場所への外出支援を行っているが、身体状況等により外出できる利用者が限られてしまっている。	友人が隣のデイサービス利用時の散歩の途中に立ち寄り話をしている利用者がいる。また、友人からの年賀状が届き、居室に飾っている方もいる。利用前からの馴染みの美容師がホームに訪問美容に来るため、昔の話に花が咲き喜んでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、トラブルが起きないように配慮している。昼間はほとんどの方がリビングで一緒に過ごし、利用者同士で会話したり、声を掛け合っている。		

グループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、本人の身体状況等にあった支援が受けられるよう関係者に情報を提供し、また退所後も必要に応じて相談や支援ができる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との何気ない会話や関わりの中から、本人の思いや意向をくみ取り、またそれを職員間で共有するよう努めている。意向や希望の把握が困難な方に対しては、行動や表情から思いをくみ取るよう努めている。	利用契約時に本人、家族、担当ケアマネージャー等から得た生活歴などの情報を大切に、常に本人本位に取り組んでいる。日々の係わりの中でつぶやき等も希望ととらえ記録し、職員間で情報の共有を図り希望に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に記入していただいた生活歴やサービス利用状況等を職員が把握し、また折に触れ本人や家族から昔の話を聞き、入所後もその人らしい暮らし方ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやケース記録、連絡ノート、バイタル及び排泄等の記録から本人の心身状態を把握できるようにしている。また、個々の日課やできることの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、本人、家族、担当者で話し合いの場を設けるなど、意向や要望の確認をしている。また、ケア会議や随時、気付きや意見を出し合っているが、3ヶ月ごとの見直しはできていない。	職員は利用者1名から2名を担当しており、モニタリングは毎月行っている。介護計画は6ヶ月毎に見直している。また状態に変化が生じた時にはその都度見直しを行っている。3ヶ月での見直しを検討し、様式等も模索中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付き、状況変化などは個別ケースに記録し、連絡ノートも活用しながら職員間で情報を共有している。またそれをケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、必要な通院介助、外出支援は柔軟に行っている。家族の要望により、毎日家族が本人に対してリハビリが行えるような体制をとっている。		

グループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある児童館の子供たちの訪問(年3回)や、保育園児の訪問(七夕)を受け入れ、子供たちとの交流を楽しめるよう支援している。また、町主催の敬老会出席や文化展に出品し、見学に出かけるなどの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週に1回、かかりつけ医による訪問診療や必要に応じて受診する際、主治と家族に身体状況について情報を伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	ホーム協力医が三分の二の利用者の前からのかかりつけ医でもあり継続している。他の利用者については家族が付き添い受診されている。その際にはホームから情報提供を行い、スムーズに受診出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常が見られた場合は、同法人内の看護職員に相談・助言を受け適切な医療が受けられるような体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に対し情報を提供し、入院中は家族や医療機関と情報交換しながら、適切な治療が受けられるよう支援している。また、退院の際は家族、医療関係者と退院後の生活について話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	持病悪化に伴いグループホームとしての対応が困難になった利用者の終末期のあり方について家族と話し合いを行い、また医療機関と連携をとリスムーズに移れるよう支援した。契約時や家族会等で、重度化した場合や医療行為が必要になった場合、基本的には対応できないことについて説明しご理解いただいている。	ホームでは立位が取れなくなった時または医療行為が必要になった場合を退所の基準としており、利用契約時に説明している。状態の変化に応じて家族と管理者で終末期などについて話し合い適切な支援を行っている。状態が不安定の方にはその方に応じた支援体制を整え手順書も作成し、何時でも対応出来るよう備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応マニュアルを作成し掲示してある。また、救急法や感染症・食中毒等発生時の対応の研修に参加している。		

グループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、避難訓練・消火訓練を行っている。また、消火設備や通報装置の設置場所や使用方法など再確認している。スプリンクラー設置や法人内一斉連絡システム導入により他事業所との協力体制ができています。消防団、地域との協力体制については、再度確認が必要と考えている。自然災害対策マニュアルは検討中。	携帯メールでの連絡網訓練や台所からの出火を想定した消火訓練・避難誘導訓練などが定期的に行われている。訓練後は反省会を行い改善に繋がっている。地区に「消防協力費」を支払い、非常時に地区からも協力を得られるようしたいと検討もしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時はドアノックと声かけを行い、本人の同意が得られてから入室している。職員会議の際、言葉使いや接し方について話し合い、人格尊重やプライバシーの確保に対する意識向上に努めている。	人生の先輩として人格を尊重し、プライドや言葉かけにも配慮している。尊厳を損ねるような対応があった時にはその都度管理者が声掛けし、職員全体のミーティングでも議題にのせ話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段と違った行動や表情、仕草から思いをくみ取るよう努めている。 行事やレクリエーションなどへの参加、家事への参加の際には本人の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおよその流れが決まっているが、可能な限り本人のペースに合わせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容師さんの出張サービスを利用し散髪したり、男性利用者の方には自分で髭剃りができるよう支援している。服装については、季節や室温を配慮したアドバイスをしているが、本人のこだわりは尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやトマトのヘタとり、もやしやヒゲとりなどの調理の下ごしらえは職員と一緒にやっている。職員が立てる献立には旬の食材や行事食を取り入れ、年に2～3回は全員で外出に出かけている。	ホームの畑では季節の野菜が作られ食卓に色を添えている。力量に合わせて食事の支度や片づけ、また台ふきのリレーにより全員でテーブル拭きを行っている。秋にはそれぞれの役割分担で野菜漬けを作り、食事の際、味見をしながら楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、毎月法人内の管理栄養士に献立内容をチェックしてもらい、栄養面での偏りがないように考慮している。また、体重の増減や体調、運動量を考慮し、一人ひとりにあった食事を提供できるように努めている。水分摂取量を把握し、著しく水分摂取量が少ない時には、好みの飲み物を提供するなど工夫している。		

グループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせ、歯磨きや義歯洗浄の促しや支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がないよう個々の排泄パターンや習慣を活かした声かけを行っている。本人の仕草や行動による排泄の訴えを察知し、トイレで排泄できるよう支援している。	個々の排泄チェック表により排泄パターンを把握しており、トイレ誘導を行い、出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する際にも、転倒に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録により排便の有無を把握し、適宜漢方薬や医師処方の薬を服用することで便秘が改善されるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣や希望に合わせた入浴支援は行えていないが、拒否の強い方には無理強いせず、本人の意思に任せている。また、タイミングや声かけを工夫している。	希望をお聞きし、1週間に2回から3回入浴出来るよう予定表をリビングに掲示し、利用者自身で確認し入浴されている。温泉気分で二人で入られる方や、一人で歌を歌いリラックスして楽しまれている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に応じて午睡の時間を設けている。また、昼間傾眠されている方や休息が必要な方には休んでいただくよう配慮している。就寝時には室温調整や寝具、環境面での配慮をし安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の目的や副作用については職員全員が薬情に目を通し確認している。また、薬が変更になった場合には、状態変化がないか経過観察し主治医に情報を伝えている。飲み忘れや誤薬を防止するため薬に記名し、専用のケースで保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中に本人のできることを探し、役割を持っていただくことで張り合いが持てるよう支援している。生け花を趣味とされている利用者に活かしていただいた花を飾ることで、ホールが明るく華やかになると共に、他の利用者も気分転換できるよう支援している。		

グループホームだんらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は行えていないが、春には花見、秋には紅葉狩りに出かけ外食を楽しむよう支援している。また、全員ではないが、個別に買い物や散歩に出掛けたり、町内の行事に参加し、地域の人々と交流できるよう支援している。	外食も含め年間行事計画を立て、季節感が味わえるよう外出している。希望により初詣にお連れしている。気分転換として日々の食材の買い物に同行していただくこともある。また、ホームのゴミを近くの法人の集積所に毎日運ぶため、体調や天気配慮し散歩も兼ね職員と一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族と管理方法を決め、お小遣いとしてお金をお預かりしている。本人より希望のあった時には自分で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎや、希望があった時には家族と電話で話せるよう支援している。また、家族からの手紙や絵葉書を部屋に飾ったり、家族に年賀状を出すなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには野山の花を飾り季節を感じられるよう努め、また行事や外出した際の写真を飾っている。ほとんどの利用者が日中はリビングで一緒にお茶を飲んだりテレビを観て過ごしている。	体調が悪い時以外は、一日の殆どをリビングのソファの、自然と決まった席でリラックスしながらテレビ観戦をしたり、おしゃべりをし和気あいあいと過ごされている。広いリビングにはペレットストーブが設置されており、柔らかい炎が懐かしい薪ストーブを思わせ、落ち着いた雰囲気と温かみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士と一緒に食事をしたり話ができるような配慮や他の利用者から離れた場所で新聞を読んだり、お茶を飲んだりできるようにテーブルを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人や家族と相談しながら馴染みのある家具やテレビなどを配置し、居心地のいい環境になるよう工夫している。また、家族との思い出の写真を飾り、家族とのつながりを大切にできるよう支援している。	居室は一部フローリングだが畳と障子、押入れという自宅を思わせる落ち着いた雰囲気である。そこに筆筒や馴染みの物が持ち込まれ、家族の写真が飾られたり個々に居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を大きく表示したり、居室の入り口には表札を付け混乱しないようにしている。それぞれの居室には洗面台を設置し、起床時に洗面や鏡をみて身だしなみを整えられるようにしている。		